

令和元年度

社会教育・公民館等職員研修会Ⅰ

日時：令和元年5月28日（火）

午前10時 ～ 午後3時45分

場所：宮城県行政庁舎 講堂

受講者振り返りシート集



宮城県社会教育・公民館等職員研修会Ⅰ 振り返りシート（令和元年5月28日）

1 午前の研修をとおして、気付いたこと・考えたことは何ですか。その考えをどのように現場で活かせると思いますか。

公民館だよりの役割についてハッとさせられた。

今まで“事業の周知や募集”の手段として捉えていた部分が大きかった。事業に参加できない方の生涯学習の場、新たな気づきや再認識の場にもなることを意識したいと思った。

公民館の活動が「生きがい」と感じてもらえるような公民館が、地域に真のつながりを生み出す公民館であり、そのためには私達職員の本気で丁寧な活動支援が大切だと改めて感じた。また、決して排除を作らず色んな立場の方を受け入れる門戸の広さと地域の方々を心から応援しています、という姿勢を見せ続けていきたいと思った。

ネットワークを常時更新していくことの必要性に気付いた。そのことが新しい人と人のつながりを作り、地域としての繋がりや一体感へと繋がると感じた。

現場でも、地域の人達との繋がりを大切にしていきたい。

社会教育法23条の解説をとおして、この法律は市民の自由な学びを守るためのものであり、公民館を使った市民行動を制約する法律ではないことを学びました。公民館職員は自由な学びを守る支援者ということを確認し、根拠となる法令についても理解を深めながら、チームで共有したいと思いました。また、貝塚市での実践を読み、館報や講座での声かけを通して、市民に公民館の役割や社会教育の楽しさを発信し、根付かせることが地域のつながりづくりにつながるのだと知り、自分も人に伝える言葉を持たなければと思いました。

- ・社会教育法第23条第1項の解釈⇒実際の事業展開の際に
- ・貝塚市の取組⇒主体的な住民の育成＋ネットワーク構築
(講義や研修を通して) (同じような思い・願いをもつ人や団体をつなぐ、つながる)

公民館だよりを発行する立場で“地域の声”というものに耳を傾けていなかったのではないかと感じました。自分自身がだよりの編成に携わっていませんが、何か別の形（号外だよりの発行など）で地区の行事紹介などを行っていったらと考えました。

- ・広報紙の意義を初めて知った。広報紙の可能性を感じた。公民館によっては、発刊していない所もあり、もったいないと思った。
- ・社会教育法23条を知れただけでも大きな意味があった1日でした。
- ・高齢化が進み、市民センターに集まれない人が多くなっている。自治会単位の地区センターが住民の今後の活動の場になると思う。出前公民館も素敵だなあと思う。

*「公民館報は発信する情報がより身近なもの」今の時代、インターネットでの情報の方が発信力があるのではないかと思っていましたが、1番てっとり早く世代を問わない情報発信であると思った。日々仕事が忙しかったりして発行（発信）していないこともあったので、今後はできるだけ公民館報を発行し、情報発信していきたいと思いました。

*公民館を中心とした地域のつながり、住民同士の関係性がつくられる様にお手伝いしていきたいと思います。

- ・社会教育法第23条を改めて勉強できた。
- ・毎月発行している「公民館だより」を事業の募集と報告だけになってしまっているのに気付いた。

つながりを作るには「自由」がテーマ
かた苦しなく、楽しみながら仲間を作る。
ケンカはしても良い。ただし、想いをぶつけ合うこと。

「人から受けた思いは、自分が返せるようになったら返す」という言葉が心に残っています。信頼関係だったり、甘えたり助け合える関係が見える良い言葉だと思いました。自分が出来る事は何か？を考えてもらうきっかけのキーワードになってくれるかな、と思ったのでボランティアを募集したいときにポイントで使いたかったです。笑

「熱意（熱量）」人と人のつながりから生まれた気持ちだと思います。今、自分が一生懸命取り組んでいること、その姿勢が必ず人へ伝わっていくことを感じました。失敗することもあるかもしれませんが、まずは「やってみよう」という気持ちを持ちたいと思います。「人を育てるのは人」だと言うことですね。その1つの場所に公民館があるのだなと思います。

自らの社会教育業務を整理し、客観的に評価、反省し次回事業をよりよくするためにも広報紙づくりには力を入れたい。

- ・事業の紹介を記録出来る。⇒12枚で年間の振り返りと次年度への計画づくりに活用できる資料こそ公民館だよりである。/施設の特徴と職員の人柄も表現できる/利用者、来館者、地域の紹介と記録の側面を持っている。

- ・どんな職場で自らが働き、どんな社会教育の取組みがなされているか、自らの業務の紹介が出来る。

住民と公民館との「つながり」が大切なのだ気付いた。その「つながり」を強くするために、館報を発行し、オープンな公民館としたり、地域の住民を巻き込んだ事業をしていく必要があると思った。

社会教育・公民館職員としてつながりをつくり、つなげていく役割の重要性を再確認できた。築いた関係性やつながりを地域や学校につなげていきたい。

社会教育法の捉えをお聞きするのは2回目でしたので、より理解を深めることができました。もっとじっくり講話をお聞きしたかったです。

生涯学習課の方々、市民センターと各地の館報を見ることができると思ったのですが、実際、館報がない。講習等は広報で知ると聞きました。館報を出している所では、館報の内容の話題等で人と人がつながれるものでした。

各公民館から生涯学習課に届けられる「公民館だより」にこれまで深い関心を持つ事が正直ななかったので、これからは内容をしっかりと見たいと思いますし、公民館職員との情報交換会で広げられたらと思います。

公民館は、地域住民の社会教育の場に徹しなければならない。裏を返せば、利用者にとっては、自由度が高く、様々な事を展開できると考えられる。

「地域でつながりをつくる」来館者には積極的に声がけをする、そうすることによって地域の話題になったり、人材の話題になったりと講座の講師のヒントになると思う。

- ・訴訟の件「で」が入るか入らないかでの判断の違い、戒めになりました。様々な場で気をつけようと・・・。

- ・子育てサークル「継続は力なり」を実感しました。昭和30年代、40年代には見られた光景ではないかと思います。現代は現代国にルールを持ってつながることが大切と感じました。尊重することは尊重し、押し付けにならず。

社会教育法第23条のお話を通して、改めて市民センターと営利、政治、宗教に関する内容を含むものとの関わりについて考えました。

館の慣習や先輩職員の判断のみに従うのではなく、きちんと法的な知識を学び、その上で判断できるようになることが重要だと感じました。また、館だよりの在り方についてのお話を伺って、自館の館だよりにおいても、地域の方の発表の場で、来館できない方にもメリットのある紙面になるよう工夫したいと思いました。

住民や団体の動き、活動の見える館報の有効性が分かった。協働教育通信、JL通信発行へ向け、その良さを取り入れ、活動の広い認識へつなげたい。

仕事をしていて「慣習のみ受け継いでしまっていないか」ということを考えさせられました。行政1年目ということで前年度の活動をなぞって進んでいるだけですが、少しでも地域のニーズを汲み取ったり、自分の思いを込めたりして職務を果たしていきたいと思いました。

公民館職員の学びの場がほしいと思いました。大崎は協働教育の一環として大崎市の公民館職員を集めて情報交換会等が昨年ありましたが、教育機関としての公民館を支えるために一人一人の職員の意識を高めるための学びの場がほしいと思いました。

館報は事業の募集や報告するだけのものではないことを改めて気付きました。作り方によっては、事業に参加するきっかけになったり、興味を持ってもらえるきっかけにもなると思います。広報紙を作成する際には意識したいと思いました。

公民館広報について、当町には存在していない状況であるが、その意味・意義は地域の活性化にとっては大きいものようである。

公民館専門の職員がいないため、事業、広報誌ともに力を入れて取り組むには厳しい状況である。町として「公民館」とは何なのか、どうあるべきなのか、見直しが必要である。

公民館だよりに新しい風を起こす、地域の方の参画を促す。

公民館の意義。公民館報の意義について、地域をつなぐ、つながりの手助けをすることなのかなと感じた。

生涯学習課や公民館が地域の人々とどう関わり、どうつながるか？
石井山准教授様やグループの方々とのワークショップで色々勉強になりました。今日聞いた事、ワークショップで話し合った事を今後、考えながら人々とつながりを大事に地域の方々の支援や事業をしていきたいと思いました。

公民館は「教育機関」であることを改めて気づき、私たちは人と人とのつながりの中で仕事をし、また生活をしていることに気づきました。

一人でも多くの人が人とのつながりを持てるよう従事していきたいと思いました

私は今年の4月から公民館で働いています。まだまだ、公民館というものが、自分の中にはなく、石井山先生の講話を聞いて、気付かされることがありました。まずは職員が地域を知り、誰に対しても平等な公民館でありたいなと思いました。

多様なニーズを求められている事を感じた。情報交換を通して、いただいた冊子を職員に回覧し、今後の在り方を考えたいと思う。

「その場は自分を受け入れてくれる。」「必ず助けてくれる関係性」が大切。公民館に行って、この話しを持ちかけたら何とかなるかも。そんな存在になりたいと思いました。

基本を再確認する事が出来ました。

「自分をさらけ出せる場」家族以外の場でそういった場所があることは、ある意味大切なことだと感じ、自分にそういった場所や相手がいるのか、ふりかえる時間をいただいた。また、公民館という場において、地域の方にとって、そんな場になれる人でありたいと思う。心をより添える人に近づいていけるよう現場で努めたい。

慣習のみで仕事をするのではなく、他の地域の公民館職員との対話や文献の情報をもとにより深く仕事の意義を学ばなくてはならないのだと気づきました。関係法令を勉強することはもちろん、他の地域の情報収集をおこたらないようにしたいです。

公民館職員の情報共有・研修の必要性。貝塚公民館のように月一度ではないが、研修会を実施しており、職員（館）同士のつながりができてきているように感じている。

公民館の支援によって「安心感」や「必ず助けてくれる関係性」を構築させることができる。つまり、公民館を通して様々な人、コミュニティと「つながる」ことができる。上記のようなことを学び、また他の館の職員の話しを聞く事で、自分の日々の業務は形式的な「貸館」のみになっており「つながり」を重視できていないのではないかと感じた。また館だよりについてもこちらからの情報提供一方通行になりがちなので、今後自分で作る際に参考にしたい。

・今一度「公民館」を見直す良い研修であった。
社会教育法…改めて内容が分かり、すぐに現場で役立つものであった。(6月の生涯学習の講座で、講師側からの申し出に対応できる。
公民館報、たよりの役目…各市町村や地域によっても、その役割や内容にも違いがあるが、いかに地域の方々に情報を発信していけるか、今後検討していきたい。

熱量・つながり・ネットワーク・あるもの探し等、何度も出てくるキーワードが大変印象的でした。人と人との学びの循環・継続性はどのように構築されていくのか、大変気になるワードでした。地域の方の声やニーズに耳を傾けながら、喜んでいただけるものを提供し、地域に貢献出来る人材育成につなげていきたい。

人間関係を育む場所、繋がりを生むきっかけとして公民館の活動があげられる。現状私たちの公民館はそのような認識、熱量を持っているのかと聞かれれば、まだまだそこまでの熱量を持ってないように感じる。ひとり一人が熱量、認識を持つ事が大切である。

かつては社教法23条は、もっとハードルが高かった。価値観が多様化する中で、例えば宗教と信条のように価値基準が難しくなり、事実上ノーマークになってきたと認識している。その他にも社教委員を置かなかつたり、社教主事を発令しない自治体があったり、日本は法治国家でなく、放置国家でないかと思う点が多々ある。

情報交換の際、広報物について意見が交わされたが、住民の立場に立ち、いかに住民が広報物に目を通してくれるかを考え、作成にあたらなければならないと再認識した。

各市町村の事業内容を聞くとそれぞれ課題があり、その課題を解決する工夫をしながら講座やイベントを行っていることから、地域の実態を理解することが大切であることがわかった。

自館で発行している公民館だよりだが、参加者募集の記事ばかりで、学習の成果を発表する視点や地域の今を伝える視点が不足していたので、よりその視点を意識した紙面づくりを心がけたいと思います。ただ、地域の今を伝えるには、情報把握や提供していただく仕組みも同時に作らないと作成時間が増加してしまうのが危惧するところです。

公民館報などの「おたより」は「お知らせ」のためだけに使うものではなく、「読んで楽しい」という視点が大切だと気付くことができました。また、参加者の成果を発表出来る場としての「おたより」という在り方も目からうろこでした。

生涯学習支援としては講座を組み立て、受講者に提供するというのが、市民センターの職員としてのメインの仕事だと思っていましたが、自ら職員として市民センターに身を置くうちに来館者の中には窓口での会話やちょっとした相談に耳を傾けたりしているうちに市民センターって、近寄りがたいと思っていたけど、今は居場所の1つになっていると言ってくれる人が1人、2人と増えてきました。その人の人生において、新しい居場所ができるということが、その人の生涯学習への支援になっているのだと思えるようになりました。声を聞くということに真摯に取り組んでいきたいと思います。それが最初の一步だと思いました。

法律、条例、規則等について、これらは利用者に対する運用を本旨とするものであり、決して活動を規制、制限するものではない。法規に対する客観的な理解が必要。

約2ヶ月生涯学習課で様々な事業を行ってきて、その中で見えた課題を解決するにはどうしたらよいかと考えていて、他市町村の現状等を聞いて参考になった。

小さい町では事業の参加者が少ないなど、人不足が深刻だが、大きい市になると参加者が多いために困っていたりと、市町によって現状は違うということに気づきました。

今年度から新規採用職員として生涯学習課に配属した私は、公民館、社会教育について何も考えずに仕事を進めてきた。しかし、今回の午前の研修内容で「社会教育法第23条」を初めて知り、それらを通して公民館・社会教育についての理解が少し深まった。

震災を経験したにもかかわらず、近所づきあいのような関係が作れていないという事に今更ながら大切な事だと思いました。何かあった時に信頼してお尋ねできる人間関係は誰もが求めるものだと思います。館報も含め、私たちがどのような情報を流し、学びの共同体を作っていくのかを考えていきたいと思います。

公民館の事業と運営は使い古された言い方ではあるが、地域住民との協働により成り立ち、相互にレベルUPを図るべきものである事を思い知った。地域を知り、地域の方に頼りにされる存在たるべく日々の業務に当たろうと思う。

公民館は講座を開催するだけでなく公民館事業を通して、参加者の人がどんな交流を出来るかが大切だと感じました。また、公民館が社会教育の法律と関係があることを知る事ができました。

公民館の必要性と存在意義の再確認が出来た。その反面職場の慣習の部分が大きいと感じることになった。今後、生涯学習課の人間として、町内の公民館が、職員がどうあるべきか、考えながら目の前の業務にあたっていきたい。

N さんのお話の中にあつた「どんな自分も受け入れてくれる安心感」と「必ず助けてくれる信頼感」が人間関係をつくるというのを聞き、公民館職員が互いの顔をつなぎ、地域住民がコミュニティを確立していくことの大切さを考えました。その際は、住民に対して「押しつけ」の姿勢ではなく「寄り添い」の姿勢を持って接することが大切ではないかと思っています。

公民館を利用する方はつながりを求めて来てる人だけではない。活動に参加することで、繋がりが自然に出来る事もあると気づきました。このことを踏まえて講座や事業内容の検討をする。

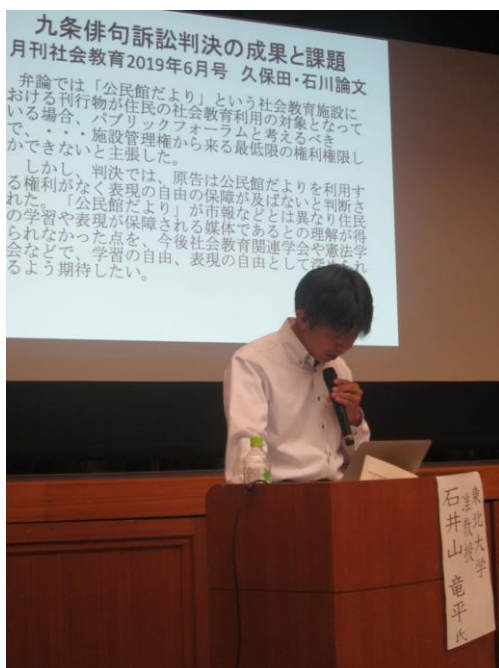
公民館報は本町にはないが、石井山先生の話しやグループワークを通して住民をつなぐ大切な役割を担っていることがわかった。実際に、公民館に来る事が出来ない人にとっての社会教育の方法になっているという言葉が印象的だった。

社会教育法23条の講話はためになりました。

公民館だよりを通じて住民の繋がりが出来たり、課題を共有したり出来る事、記録や通知を超えて出来る事があることが面白いと思った。紙媒体はまだまだ強く、回覧板や掲示板というのもまだまだ地域をつなぐ力があるなと思った。

情報交換において、他市および他機関の方から現場での声を聞かせていただいた。自分の職場に置き換えて、話しを伺うことが出来た。ちょっとしたアイディアもいただけたような気がするので、情報交換、対話って、やっぱり大事だと感じました。

固定概念にとらわれず、住民のためになることを積極的に仕掛けていく。



2 午後の3人のお話で、一番印象に残ったことは何ですか。それはなぜですか。

「蒔いた種は必ず芽が出る！！」

教育という名のつくものは、すぐに成果が出るものが少ないと思う。財政難の中、費用対効果ですぐに成果が出せなければ事業停止につながる場合もあると思う。

しかし、芽が出る経験を沢山実感することで、社会教育の重要性を語れる自分になれると思う。そうなれるよう、必ず芽が出ると信じ、種まきに挑戦していきたい。

- ・ 熱い思いを持って活動すること。地域住民と協働して熱を共有すること。そのために地域住民のニーズを的確に把握し、活躍の場（アウトプットの場）を作り出す。この循環が生まれれば持続可能な住民組織ができ、地域がつくられていくのだと感じた。
- ・ 人と人とのつながりで人が育つ、ということが一番印象に残った。

どのお話もとても興味深く、公民館や社会教育で育つということがいかに魅力的なものであるかを実感することができた。中でも岩佐さんのパワー、郷土愛、人間愛、そして実行力は本当に素晴らしいと思った。語る言葉の全てが愛に満ちている感じがした。

共通して「立場（子ども－大人／官－民／職員－学習者）を超えて、一体感か話しやすい環境づくりが必要だと思いました。また、現在、公私ともに社会教育事業に力を入れられている先生方の活動のきっかけが、お菓子や友人との交流というものだったのも印象に残りました。

自分だったら、どういう入口だと入りやすいか、楽しめるかを考え、またそこで集まった人が、どうすれば社会教育の深みにはまっていけるかを考え、実践していきたいと思う。

- ・ 熱量（社会教育に携わる者のベースにある（あってほしい）ものだから）
- ・ あるもの探し（行政はやもすると減点法で物事を考えがちだから）
- ・ 人間力の育成（学校教育と社会教育が車の両輪を成すことの重要性を再確認できたから。）
- ・ 失敗と捉えるか、次への糧と捉えるか。

「失敗を恐れない」ということです。教室・講座を企画する時、必ず「失敗しないためには・・・」と考えていましたが、お話しを伺い、失敗してもいいから、やってみる！今、自分が行っていることが、将来に繋がるんだ。と少し、自信を持ってやってみようと思いました。

- ・ 岩佐さんのスカウトが素晴らしい。
- ・ 憧れ、きれい事、熱意、つなぐの4つのキーワードはまちづくりにつながると思う。これを持続させるためには目的が大切だと思う。
- ・ 私は熱意は見える位でいいと思う。熱意の方向をまちがわなければ必ず人がついてくると思う。（3人の方々は熱意が見えました）

「ないものねだりでなく、あるもの探し」つい、この地区には何もないという言葉が出ます。今日のお話を聞いてなにのではなく、あるものはきっとみつきりそれが宝であり、その宝が魅力になる！！明日からはあるもの探しをしていきたいと思えます。

「第三者」が公民館職員であると思った。

目的が明確。何のためにやっているのかがはっきりしていた。
それが「熱」「つながり」「楽」へとつながっていった。

山元町の岩佐さんのお話を聞いて、個人と対話することの大切さについて考えさせられました。若者とか若い人とかモヤッとした集団ではなく、個人として名前を知り、特技を知り、関わりをもっていくプロセスは時間がかかるかもしれないけど「来てくださーい!!」とやみくもに声をかけるより、ピンポイントで行ったほうが本当に参加してほしい人に出会えるのかなと思いました。

「ないもの探しではなく、あるもの探し」
私事ですが、地域学校協働活動も担当しています。地域には素晴らしい人材が沢山います。それを見つけるのは人であり、人と人との繋がり大切さを強く感じました。3人の方もジュニア・リーダーを経験なさったり、議員さんをなさったり、人と人がつながる場にいたことが、ずっと心の中にあるのだなぁと思いました。まずは、もっともっと地域を知りたいと思えます。

公民館はひとりひとりを取りこぼさず、つなぎ育て、活動を共に歩むべきだと思いますが、そのような職員になるためには、どのような訓練、鍛え方が必要でしょうか？

岩佐さんの「若い人」はいるんだという話が一番印象に残った。
コンビニなどに来る若い人に声をかけることで「つながり」を作っているとのことだったが、普通声をかけるには何かきっかけが必要だと思うので驚いた。そのきっかけ無しに自分からきっかけを作っていく姿勢が重要だと気づかされた。

熱量と熱量を持った人を増やしていくこと。また、継続していくために、目的をもって活動していくことが必要である。

3人のお話すべてが印象的でした。いろいろな方といろいろな実践を聞くことから自分ができることを見つけられたらと思えます。

つながりが大切、熱量。
これから世代にどうつなげていけば良いか考えたため。

エネルギーとその伝染力や感染力、それを受け取る側の受け皿です。成功例や成功体験を多くお話してもらいましたが、必ずしもどこでも上手くいくとは思えない中で、その伝え方を考えていかななくてはと思いました。

まず、全員が「良縁」に恵まれていると思いました。社会教育の掲げ、通常資本主義における損得を（ほぼ）度外視しなければならない傾向が強いため、いろいろな特技を持った人、知識を持った人等の存在が重要となる。

中学生～JLをやっていた。小さい時から公民館・市民センターを知っている。利用している方は大人になっても利用してくれるし、講座等にも興味を持ってくれ参加にもつながります。そこで仲間になったり、居場所づくりにもなりますね。

熱い想いが伝わってきました。「無いものねだりからあるもの探しへ」の言葉にはうなずけました。あるもの探しを始めます。今は、今風にカタチを変えていく。ヒントになりました。岩佐さんの「人を育てなければ国が滅ぶ」その通りですね。熱い想いを持続し、人の為、地域の為、そして自分の為に頑張ります。

とにかく3人の講師の方に共通して、圧倒的な熱量を感じました。特に「若者探し」のお話しはとても印象に残りました。館の現状や状況のバランスを鑑みながらにはなると思いますが、「そこまでするか」というところまで、時には踏み込む事も大事なのかなと考えました。そしてそれは長い間、地域の方との関係を育ててきた背景があつてのことと知って、これからの業務の中で自分も意識していきたいと思いました。

「熱」を生む原動力、「熱」を支える仲間や目的意識、「熱」の持続、それらについて具体的に考えることができた。「熱」をうまく広げたり、理解したりできる場を模索したい。

全体発表の中で、多くの班から出ていましたが、お三方とも熱い方だと思いました。ここまで来る中で、多くの失敗・挫折があつたということですが「楽しむ」ことと同じ思いを持った仲間がいたことで乗り越えたとありましたが、PDCAの「P」「C」の部分をしっかり行っていたのかなと思いました。ただ提案するだけでなく、説得力のある提案をしていきたいと思いました。

Jrリーダーの存在の大きさを改めて感じました。NHKの朝ドラの中で「子どもの頃の思い出は、大人になった時にふるさとになる」というのがありました。やはり、子どもたちに沢山、種をまいておきたいし、私自身もいいたねを持っていたいと思います。大崎コミュニティカレッジおもしろそうです。

「熱量」がキーワードだったと思います。周りの方から熱をもらうこと、自分の熱を周りに伝えることが活動を活発にしたり発展させるのだなと感じました。

皆さんがお話された「熱量」というものを私は持っているのか？逆に冷やしてしまうのでは。

熱量を持って人に伝える為には、人と向き合う事、楽しんでやる事、仲間を作る事。

人と人とのつながりについて改めて考えさせられた。

ぴいす☆かんぱにいの千葉さんのお話で「熱い思い熱意が理想的」というのが心に残りました。第3者の大人の役割や真っ直ぐで熱い大人を目指してるとという言葉や気をつけている事は？の質問に「子供の前でも、大人の前でも本音を話す」とおっしゃっていて、色々自分の生活、自分の子供との接し方を見直すきっかけにもなるお言葉でした。熱意！！大事ですね！！とても心に残りました。

「熱量」人と人とのつながりをもって活動するにあたり、熱意をもっている方々であると感じました。Jr 経験者である先生もおられました。これからつながりをもつ方と色々な所がかかわれるよう従事したいと思いました。

私は今年の4月から公民館で働いています。まだまだ、公民館というものが自分の中にはなく、石井山先生の講話を聞いて、気付かされることがありました。まずは職員が地域を知り、誰に対しても平等な公民館でありたいなと思いました。

千葉さんの話。ジュニアリーダーに入ったきっかけから現在に至る話。

自分が学び、人に感謝し、次に長い年月学びのきっかけ作りをしている姿に刺激を受けました。

つながりの大切さが伝わりました。熱い思いが活動につながっている。三名の方のテーマに対する資料があると良いと思いました。

3人方とも大変な熱量を持ってみえるなと感じました。20～30年継続しているところから感じました。それは、どのように保たれてきたのか、活動の中での子供たちの笑顔が原動力になっているのかなと思います。人とかかわることで、楽しく、楽しんで活動していくことが大切なのか。また、ある物探しも印象的でした。以外と目先をかえると見えてくる物が違うんだ。気づきが大切なんだ。

活動に熱がなければ周りに伝わらないということです。自分自身が楽しんでいききとしていなければ、住民へも伝えることができないと感じたからです。

繋がりを大切にす。コミュニケーションをしっかりとる。

山元町岩佐さん、駅前では若者に声がけ→インターネット・AIの普及する現代の中でデジタル的なつながりではなく、アナログ的に公民館の外に出て会話を通して、公民館に引き込む積極性（熱量）を感じました。

共通の認識としての「熱い思い」。ただし公民館主体になるのではなく、地域の人々に熱量を伝えて行動（活動）につなげていくことが大切ということ。普段の自分の業務において、熱をまだあまり感じることなく日々を送っていたので、中島さんの最後の話にあったように、行動し熱い人に会うという活動をしたいと感じた。本日の講話はどれも熱く、大変良いきっかけになったと感じたので、明日からの行動につなげたい。

みなさん、熱いですね。お話をしている時の自信に満ちあふれたお姿から、これまでの活動経験の様子を伺い知ることができ、その基本になっているのが、公民館であることに、非常に感慨深かった。何か物事に取り組む時に、その自身がいかに関心を持てるか信念を持って取り組み、人と人を繋いでいく手だてを考えながらやっていらっしやることを学ばせていただきました。

山元の未来への種まき会議実行委員長 副代表 岩佐孝子氏の講話は大変印象的でした。30年間というキャリアは大変長く、様々な経験の積み重ねから得られた自信と説得力は圧倒的でした。「ないもの探し」→「あるもの探し」まいた種は必ず芽が出る。枝葉が出る。あきらめちゃいけないという言葉は大変力強く、今後の公民館始動において背中を押していただいたと感じております。

「まいた種は必ず芽が出る」どんな失敗をしても、その失敗は次のステップへ自らを成長させるための出来事だと捉え、自らの希望を失わないことが大切。一步、一步小さな可能性を照らすように仕事に取り組んでいきたい。失敗を恐れない心をこの講話の中で学べたことが大きかった。

志を貫いていること。そんな人材を育てていきたい。

やはり、3名の熱い思いを受け止め、社会教育職員としてのコーディネート機能を充実させる必要があるものと感じた。

「熱量」「本気」が共通点であった。市町村の現状を理解し、活性させるための取り組みが何であるか感じられた。特に青少年期の出会いが大切となるので、社会教育の大切さを知った。

人どうしの繋がりを成長させることにおいて、社会教育と公民館の役割があるということ。

3名に共通していることだが、熱を持って人づくり、地域づくりに取り組むと同時に熱を伝導することで意識させてると感じました。

職員ひとりが熱くなるのではなく、住民と一緒に熱く取り組むことで地域の力を引き出し、魅力ある地域をつくり出す職員になりたいと思います。

熱量がそれぞれ素晴らしいと感じました。

社会教育をすすめていく上で、不可欠であり、同時に維持することが難しいものだと言業務の中で感じているからです。

地域貢献など全く考えていなかった若者に公民館職員が何らかのつながりを（意図的に？）持ち、社会教育の大切さを語り続けるということで、種をまき、育て続けることで、数年後、10数年後に花が開いたというのは、とても遠大でかっこいいと思いました。私もJLと関わって仕事をすることもありますし、市民の意欲を持った方々と講座を作り上げていったこともあります。数年後それがどんな風成長（？）しているか楽しみです。そして、彼らに負けずに私も成長していなければと思いました。

- ・社会教育における世代間交流を通じた地域形成。
- ・長期的なまちづくりの視点に立った社会教育（構想ベースの一つ）
- ・担い手による地域活動についての周知が必要。

3人の講師の方共通して、人ひとりひとりの出会いをとっても大切にしているということがわかりました。道ばたで少し話したりした人でも、何かの事業を行うときに関わることがあるのだとわかりました。また、山元町の岩佐さんのお話の中で「意見が出たら必ず実行にうつす」ということが印象に残りました。ちょっとした「〇〇がしたい」という意見にも耳を傾け、必ず実行することが、地域の活性化にも繋がるし、人と人との繋がりにも通じるし、子どもたちも成長するのだということを考えることができました。

ぴいす☆かんぱにいの千葉拓也さんの講義が一番印象に残った。第三者の大人の意見を出し、本音で真っ直ぐに語り合える仲間は大切だといった所が特に印象に残った。私も今後のJLの事業において、これらを活かしていければ、もっとJLの熱意が増し、活性化するのではないかと考えた。

いろいろなグループで出ましたが、熱い思いだと思います。自分も持っているのですが、なかなか伝わりません。でも今日はわかりました。人柄です。話し方などから分かる人としての魅力です。自分をもっと磨いていかなければと思います。そのための学びの瞬間を自分で確保していこうと思います。

何かをやるうとした際の官・民の一体感を公民館が鍵となり、気づきや機会を提供し、「引っ張る人」の育成を図る。これが社会教育の基本であるという点を気付かされた。「蒔いた種は必ず芽が出る」「長い目で気負わず」活動する方々の援護が我々の仕事であると感じた。

今と昔の差。「当時はこうでした」「このようにやってきた」は昔のことであり、「今はこうだ」「このようにやっていく」を常に考えて取り組んでいく必要がある。熱量？当たり前だと思います。

公民館の在り方として、岩佐氏の話から「気楽にお茶を飲める場か？市民が自分の意見を言える場か？」というのが印象に残りました。市民に寄り添い、対話をしていく中で地域のニーズを踏まえ、地域住民との顔をつなぎ、一緒になって活動をしていく・・・そういった「わが町の公民館」をつくり上げていくことが大切だと感じました。

「熱量について」

ワークショップでも熱量を上げることについて、維持することについて、話合いました。この熱量が住民にも伝わる。また、行政だけでなく住民の熱量も上げることや調整することも大切だと分かりました。楽しいメンバーとの「楽しさ」が熱量のある活動につながることも学びました。

「つながり」「熱量」

今年度より、行政職員となり、学校現場と違って、年齢も性格も生活も違う住民と一緒に生きていく、同じ志を持って取り組んでいくためにこの2つは常に心にとめて関わりたい。

自分にも（地域の）人に対する興味や好奇心を常に持ち、能力を引き出したり、行事等に参加してもらうための交渉力と行動力が欲しいと感じるとともに今後の行動にも気をつけていきたいと思います。

3人とも熱心な方で、それが周りに伝わっているなと思った。実際に話すということは地球課題の把握、共有に最も効果的な手段だと思った。そのような人々をつないでいくことが社会教育のやるべきことだと思った。

熱い思いがビシビシと伝わってきた。しかしながら個人の力では限界がある。担当者が変われば、その担当によってもそれぞれ組織として対応できるよう、学校、公民館、市民活動センターなど役割分担をしっかりと整理していくことも必要と感じた。

3 全体をとおして気付いたこと、学び得たこと。

何か行動する。行動し続けることは苦労も失敗も多い。しかし、それらは全て成功の糧になる。そう信じやり続けることが未来に繋がっていくと感じた。私自身、恐れず“おっ!! またピンチ来たー!!”と楽しめるぐらいの心の余裕を持って市民支援を続けていきたい。

今回の研修のキーワードの1つが「熱量」であったが、社会教育に携わる方々にも様々な熱量のレベルがあると思う。たとえ、今回お話しいただいたお三方のようにはなれなくても、沢山全国の実践を学んだり、熱量のある方のお話を直接聞いたりすることで、必ず他力熱による熱伝導が生まれるのではないかと考えた。また、自分自身がそういう人になれるよう、努力していきたいと思った。

人と人の繋がり大切さ、つながることで生まれる様々な学びを大切にしていきたい。そして、熱を持って、今後の事業にあたっていきたい。

午前、午後の講話をとおして、職員に求められる基本的な力というのは、人間性だと感じました。自分自身をかえりみると完璧な人格者になることは難しいのですが、公民館で働く中で出会う、いつも好奇心を持って学ぼうとする人、周囲の人の心に気を配って動ける人など、魅力的な人達から学びながら自分を磨いていきたいと思えます。

貝塚市の3名の方の実践から思いをいかに伝え、活動や仲間の輪を拡充していくが「人に目を向けること」「継続していくことで得られるものがあること」を学びました。事業評価の際、アウトプット（数値的な結果）にだけ目がいきがちですが、アウトカム（波及効果、人の変容、ネットワークの広がり等）丁寧に捉え、次の活動への原動力（客観的効果、人の変容、次へのエビデンス）にしたいと思えました。

今回の研修会で、人と人の「つながり」の大切さ。どんなことでも「楽しんでやること」に気付き、日々の仕事も「やらされている」のではなく、まずは、自分が楽しむこと。そうでなければ、参加者の方を楽しませることはできないと思えました。まずは、今の自分ができることを見つけ、少しでも多くの地域の方の声を聞き、「自分は地域から必要とされているんだ。」と思っただけのような活動をしていきたいと思えます。

講話・事例発表だけでなく、参加者同士の意見交換も勉強になった。公民館は市全体の目的に向かって差がなくすすむことができると思うが、市民センターはまちづくり協議会の考え方などで左右されると思う。市内8カ所市民センターはあるが、差が大きくなっているように思う。住民のための市民センターなのだから、差を作らずに全体で発展したい。

公民館（社会教育）を通して人との繋がり（ネットワーク）ができていると思った。住民が事業や講座に参加だけしているのではなく、参加者同士の関係性が作られているのは、大きな宝であると思った。そして職員として繋がりを学び、育てていただいている。

熱量、繋がり、人として。

とにかく「目的の共有」が大切。まちづくり、地域課題の解決、つながりの形成、事例発表者は明確であった。行政職員はこれに習うべき。

今日は同じグループの皆さんと沢山お話しできてとても充実した時間を過ごすことが出来ました。自分の所属する館や同じ市内の職員だけでなく、広く情報を得て、狭い知見にとじこもらないようにしていきたいです。情報を発信することも公民館の役割のひとつだと思います。自分からどんどん外に出て、アンテナ高くしていきたいです。

社会教育に関する研修を受けるたびに、少しずつ、パズルが埋まっていくように思えます。立場上、多くの研修にいかせていただいておりますが、少しずつではあるけど、つながりが分かってきて、大きな社会教育というパズルが完成しそうです。パズルのピースが自分で学んだことだと思いますので、今日は沢山のピースが集まりました。これからも多くのことを学んでいきたいと思います。

一人一人を取りこぼさず活動とともに歩む職員になるために、研修の機会をみつけて、少しでも学び進めていきたいと思っています。

熱意は人に伝わるものであることを学び、その熱意を多くの人に伝えることで「繋がり」を生むことが重要だと学んだ。住民との「繋がり」を大切に、社会教育を推進していきたいと思った。

同じ想いを持って、巻き込みながら活動していくためのネットワークづくり。

本日参加し、研修した内容をもっと多くの公民館職員の方々とも共有したいと感じました。

地域の方々と職員との関係を築いていきたい。

公民館の活用の仕方です。地域の人が集まる場所、人を集める場所として、気軽に使える場にするためにどうしたらよいかと考えるきっかけとなりました。

いかに熱意をもって取り組めるか。そして周囲を巻き込めるか。

日々の利用者の方々とのコミュニケーションが大きいです。声かけ（天気の話とかたわいもない会話）が利用者と繋がっていきます。住民ともつながり、職員の熱い熱意があれば、人も集まり、講座等も楽しく開催され、公民館や市民センターの活動、地域での活動も活発になると思います。

普段は主に自分の職属するセンター、もしくは同じ仙台市のセンターの職員と話すことが多いのですが、他の地域で活躍される様々な職員の方と情報共有することで視野が広まったと感じています。今後の業務に生きるヒントが沢山ありました。まだ市民センターの業務に携わるようになって1年ですが、業務の基本となる考え方やうまくいかないことも多いと思いますが、シンプルに「希望を失わない」ように仕事をしていくことがまずは大事なのかなと感じました。

人のありがたさ、人の無限の力を改めて感じた。生涯学習の様々な場で活かしていきたい。

熱い思いというのは当たり前なのですが、それだけでは物事は進んでいかないと感じました。活動の根拠となること、活動を行うことによってどんな広がりがあるのかなど自分なりにしっかりと学ぶことが大切だと思いました。

社会を通して、地域を通して、家庭を通して、一人一人が自己肯定感を持つこと。そこからスタートして社会全体につながり、またつなげる働きをすること。社会教育は改めて楽しいと思いました。

公民館は住民に一番近いものだと強く認識することができました。住民の要望を聞きやすいのも公民館であるし、住民と多くの対話をすることができるのも公民館だと思いました。

生涯学習（特に公民館）に携わる我々職員が熱い気持ちを持っていないと変わらない。行政職員として「異動」を避けられない。根っこを下ろして、どハマリするところまでのモチベーションは持てないかも・・・。

子どもたちと関わる為に、真っ直ぐで面白い大人の存在が大切な事を心がけ、今後の事業に取り組みたいです。

熱い思い。ただ、人として楽しむ、楽しめるということが大切なのだと思った。

公民館でつながるということではなく、公民館で活動したり学ぶことは、人と人とが繋がること、地域と人を結ぶ場所であると思いました。

人と人の繋がりの中で、仕事をしている事に気付きました。
繋がる人の熱に負けないよう、つながりたいと思いました。

岩佐さんが言ったように、希望を失わずに楽しんで仕事をしていきたいと思えます。

アンテナを広く張って、これからに活かしたい。

「集う」「学ぶ」「繋がる」公民館の役割がやっと見えてきた今日この頃。日々どのようにしたら良いか？何をやれば喜んでいただけるか？想像しながら仕事をしています。来館者が増え、学習会の参加者が増え、仕組んでいる様な気でいましたが、自分の方が周囲に育てていただいた事に気付きました。（高齢者教育で御世話になった方が先週亡くなりました。振り返ると涙が止まりませんでした。育てて頂きました。この仕事はとても奥が深いです。）グループワークでお話しした内容がとても参考になりました。

沢山の方と話をさせて頂き、色々な考え方を聞いたのがとても良かったです。

公民館は地域の人をつなぐ場所なんだということを改めて学びました。そのため
の手段として講座を行ったりして、参加の場を設けている。そこから地域の人々の
良さを発見して、地域に還元していきたい。自分自身がアンテナを高くして、地域
の人々と交わって、地域へこれからの子供たちの恩送りをしていきたい。

「社会教育」は行政・民間関係なく共に学び・成長していくものだということ。

J・L担当として、職員だけでなくメンバーの「熱量」をどう上げるか。今までは、
人数集めに囚われていたが、今回の研修・その他の研修を通して在籍している
メンバーの意識改革、熱量を上げていきたい。熱量のあるJ・Lには子ども達もつ
いてくる！

社会教区・公民館職員として働き始めて2ヶ月弱ですが、まだ分からないことや
不安も多く、日々を形式的に過ごしてきました。ですが、本日4名の先生の講話を
聞き、同じグループで他の市町村で働く方々や学生さんの話を聞き、「熱い思い」を
持つことの大切さを感じました。普段聞けないリアルな話を聞いて大変刺激になり、
明日からのモチベーションにつながりました。

地域の公民館の役割、役目、立場を今一度、再確認すると共に、仕事を携わる私
達職員一人一人が、地域の公民館運営をどのようにしていくのかを、きちんと考え
ていかなければならないこと。公民館が「地域の要」として、地域の方々が嬉しい
時も悲しい時、困った時、どんな時でも公民館に行けばなんとかなると思ってもら
える様な、場所作りを今後心がけたい。地域の人と人をつなぐ大切な場所で、お仕
事していることに誇りをもって活動したいと思えます。

職務上、関わってくる「人」と楽しんで関わり、関わる人達の力を結集させて、まいた種は必ず芽が出ると信じ、折れない原動力をもち続けていきたいと思えるようになりたい。

熱量は社会教育において根幹となるものであり、活動の源である。一人一人の熱は周りに伝えるため、まずは自分がしっかりとした熱を持ち活動を行っていききたいと思う。そのために仕事だと思わず、楽しんで業務に取り組んでいきたい。

午後からの参加でしたが、座学だけでは決して得られない沢山の大切なことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。我々も「熱意」をしっかりと持って、今後も学び続けたいと考えております。

人と人とのつながりを重視した公民館・社会教育事業の実施を目指し、今回の研修で得たことを参考に検討していきたいと思えます。

「ないもの」よりも「あるもの探し」が大切であること。

公民館職員と地域の人との繋がりを持つことで、より大きな力を生み出せると感じたのと同時に今回の研修会で他の公民館職員と共に地域を深く理解し合えたことで仕事に対する熱を頂くことができ、明日以降の仕事により積極的に取り組むことができると思います。

職員の意識の持ち方、モチベーション次第で社会教育事業の在り方は変わるのかなと感じました。一方で、熱量だけではだめで、ある程度政策的に冷静に次の一手を考えながら動いていくことも必要なのだと感じました。

自分は世の中を変えられないかもしれないけど、世の中を変えられる人を見つけ、支援したり、人が人生を有意義におくれる手助けができる素晴らしい仕事をしているということに気づき、誇りを持って仕事を続けていきたいと思いました。

時代性、地域実態に即した事業展開を。(目的・ねらいを明確化した上での事業精査) 原理・原則論をグレーにしてはならない。柔軟な発想力や企画力を確かな下敷き、土台があってこそ生まれるものである。

今回の講義を通して、特に午後の部から「熱量」という単語を多く聞いた。情熱を持ち、まっすぐな思いを持つことは大切であるとわかった。しかし、それだけでなく「人とのつながり」や「あるもの探し」なども必要なのではないかとも思った。この3つも、今後の業務に生かしていきたい。

今年初めて社会教育に関わって「何のために社会教育をするのか」という目的があまりよく分かっていなくて、事業を行うとしてもあまり熱が入っていなかったと感じるので、今回の研修で学んだ事を生かして事業を行いたいと思いました。私自身は今まで生きてきて、地域の活動には積極的に参加したりしたことはないのですが、もし参加していたら良い経験になっただろうし、考え方も変わっていただろうと感じました。やはり「教育委員会」ということもあって、学校の勉強とはまた違った大切な教育の場であると実感しました。

私達に関わっている社会教育とはいったい何なのかを考える良い機会となりました。グループの中の結論としては社会教育は奥が深いでした。当たり前ですが、どうすれば良いのか結論が出ればもう学ぶ必要がなくなりました。いつまでも仲間と色々考え学んでいく、それが生きがいになり町づくりになっていく。それが素晴らしいと思える一日でした。そして、自分自身が楽しみ、成長を続けていかなければという熱い思いを持つ事ができました。

「肩書きを超えた人としての向き合い」の大切さとそれを常に念頭に置いた日々の業務の遂行が社会教育に携わる者として大切であると気付いた。

社会教育や生涯学習が人の成長を手助けし、それぞれの学習することへとつながるものだと今回の研修に参加して気付きました。これから公民館の講座をどのように行うか考えるきっかけになりました。

研修での気づきと現場とのギャップを痛感している。さあ、現場で頑張ろうという気持ちが高まりました。

つながりも事業や講座の内容も最後は「人同士」であると思いました。熱を持って活動し、その熱を伝え、継続していくためには、人と人が対話し、想いを共有していくことが大切です。そこにいるのは「人」なので相手の話に耳を心を傾けて寄り添う姿勢で臨みたいと思いました。

法の解釈をしっかりとする。情報交換で各市町の取組みやアイデアを教えていただいたこと。

様々な地域や役職、経験の方々と話ができ多くの学びがあった。また、館報を共有することで他の状況がわかり、紙面上だけでなく、事業や仕事に生かせるものとなった。

課題はわかっているもののどうすればいいか、何から始めれば良いのかわからないという意見が多かった。何かしらの思いを持っている中で、それを行動するためにすべきことを考えていかなければならないと思った。

人作り、仲間作り、公民館がそのような場を提供する大切な場所であることを再認識できた。公民館職員との対話を大事にしながら敷居の低い更に明るい公民館作りを目指したい。

人の出会いを大切にする。やる気のある人には、やる気のある人が集まる。熱い思いを住民に伝えていき、行動に移す。

法の解釈をしっかりとする。情報交換で各市町の取組みやアイデアを教えていただいたこと。

